

地域課題① 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直し
- 将来を見据えた会費のあり方の検討と、共同作業の見直し
- 近隣する単位自治組織との交流と協力体制の構築
- 新しい生活様式に対応し、SNS やオンライン化の導入の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	33	49%
取り組まなかった	35	51%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・事業内容と共同作業の見直しを行った。
- ・集落行事の改善を行い、現状に合わないルールを廃止した。
- ・将来各世帯の負担を軽減できるようにするため、集落公民館の建物共済の内容を見直した。
- ・集落行事の時間や曜日等の変更を検討した。
- ・自主防災等の話し合いを行った。

【31～100 世帯】

- ・貯蓄型集落会費とならないよう見直し、年会費の減額を図った。
- ・役員間の連絡に LINE を使用したところ、会議招集等の連絡負担が軽減され、迅速な対応が可能になった。
- ・転入してきた住民のコミュニティ参画を促すため、事業への参加を呼び掛けた。
- ・集落の現状を踏まえ持続可能な行事の在り方を精査、見直し、改善を行った。
- ・事業実施による役員と年次当番者の負担軽減のため、来年度の事業内容の再検討を行った。

地域課題② 多様な人材の活用と役員等の負担軽減

★具体的取組の例

- 役員負担軽減につながる効果的な組織体制の見直し
- 単位自治組織が抱える課題・将来像を共有する場づくり
- 女性や若者を登用し、幅広い年齢層が参加しやすい集落運営の仕組みづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	27	40%
取り組まなかった	41	60%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・小規模集落の人材不足により役員の若年化が進み、現役世代の負担が増になっている点を踏まえ、役員任期を短くし再度上の年代が担うことにした。
- ・役員のグループ LINE を作ったことで会議開催の連絡など簡単にできるようになり、負担が軽減された。

- ・集落会費集金を年度一括払い可能とした。
- ・隣組を戸数減により 3 から 2 に集約した。
- ・役員の重複を避けた。
- ・全役員の任期を 1 年に変更した。

【31～100 世帯】

- ・役員、組長の負担軽減に繋がるよう、緑の募金等個別集金業務を廃止し、町内会計収支へ組み入れた。
- ・集落会費を年度一括払い可とし、隣組長の負担軽減を図った。
- ・集落会費の徴収を他組織である神社・お寺等の会費徴収の時期と統一した。
- ・小中学校の賛助会費を集落会計から一括で支出し、PTA 役員の負担軽減を図った。
- ・役員会、総会の他にも、行事に関する打合せや住民の交流の場を通じて、気軽に課題や希望を役員が聴く機会を取り入れた。
- ・会計、区長の任期を 2 年から 1 年に変更し役員の高齢化防止と職務の負担軽減を図った。
- ・役員のポストを減らし、業務負担も減らした。
- ・役員の年齢差があり職業も多様なため、できるだけ負担のないようにしている。

域課題③ 多世代が交流し、あいさつを交わし合える地域づくり

★具体的取組の例

- 地域の特性を活かした多世代参加・交流型事業の開催
- 若者が事業を通じて企画・運営の達成感や充実感を感じられる仕掛けづくり
- 笑顔であいさつを交わし気軽に話し合える雰囲気や場づくり
- 子どもが地域の大人とつながり、体験を通して地域の魅力を知ることによるふるさと大好きな子どもの育成

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	33	49%
取り組まなかった	35	51%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・コロナの影響により開催できなかった事業を再開し、交流を図った。(花見、夏祭り、敬老会、芋煮会、収穫祭など)
- ・祭事の曜日変更を行い、休日に実施することにし、多くの人が参加できるようにした。
- ・花の植栽活動を通し、多世代の交流を図った。

【31～100 世帯】

- ・地域行事を通じ、子供達と大人の共同体験を通して地域の魅力を共有することができた。
- ・小中高校生と大人が顔を合わせたときは、どちらから必ず挨拶をするようになった。
- ・公民館広場が広くなり、交流が多くなった。
- ・子供会による資源回収の参加など地域貢献活動の取組みを積極的に行ない、地域住民との交流を図った。
- ・集落内の清掃美化運動、子供会参加の花の植栽事業を実施した。
- ・神社祭典での子供達の神輿引き、青年部が運営する夏祭りは、世代間のふれあいの機会として大き

な成果があった。

地域課題④ お互いを見守り支え合う安全で安心な地域づくり

★具体的取組の例

- 自主防災組織の機能点検及び広域コミュニティ組織と連携した事業体制の構築
- 有事に備えた住民情報の把握と見守り・支え合い体制の仕組みづくり
- 他団体と連携した高齢者等交流・支援活動の実施
- 空き家情報の把握と市への情報提供

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	39	57%
取り組まなかった	29	43%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・1 人暮らし世帯への声掛けを行った。
- ・総会の時に、一次避難場所の確認と地震時の 3～4 割の死亡原因とされる部屋での災害対応法を周知した。
- ・消防団再編成による体制づくり。
- ・回覧板、広報配布時に高齢者宅等の見守り声掛けを実施した。
- ・自主防災組織の見直し、及び災害等に備えた住民との連絡・情報共有を図った。
- ・集落内の危険箇所の確認や市への要請、公園遊具の点検を行った。
- ・集落内の防犯灯点検を実施した。

【31～100 世帯】

- ・空き家情報を含む防災マップを毎年全戸配布し、情報提供している。
- ・地域防災訓練において集落全戸の安否確認を実施した。
- ・自主防災計画を策定し、災害への意識啓発を行った。又、災害時避難行動要支援者への個別避難計画作成に取り組んだ。
- ・年 1 回の防災訓練を通して集落 1 人 1 人の防災意識を高め、公民館に防災用品の補充を図った。
- ・集落内の空き家の道端の草刈を行った。
- ・老朽化した公民館裏のフェンスを撤去した。
- ・令和 4 年度に行った家族調査から、①避難時の要支援者②高齢 1 人暮らし③高齢者のみ世帯を把握し、①②の対象者との意見交換と要望等の確認を行い、連絡体制を見直した。
- ・有事に備え世帯ごとの緊急連絡先を把握した。

その他／ 地域で課題になっていることなど

【30 世帯以下】

- ・人材不足、役員固定化、何年も同じ人が同じ役に就いている。
- ・高齢化が進み、行事、祭事など参加できない人が増えてきている（コミュニケーションが取れない）。
- ・災害時の避難及び救護体制が整っていない。
- ・LINE を使った連絡網を導入したいが、スマホを持っていない役員もあり進められない。

【31～100 世帯】

- ・高齢者のみ世帯や1人暮らし世帯が増え、管理不全の空き家が増える不安があり、対策が必要。
- ・少子化により子供行事の実施が困難。
- ・集落住民の老若男女を問わず多くが参加できる事業（レクリエーション等）を検討したいが、年齢層で考え方も違い、若年層は集落活動に対し消極的な人も多く、開催が難しい。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

【30 世帯以下】

- ・集落内の世代を超えての交流やコミュニケーションが行えるような事業。
- ・自主防災訓練。

【31～100 世帯】

- ・世帯台帳整備、対象世帯限定の緊急連絡先把握。
- ・役員と担当民生児童委員等とで今後必要な取組みに繋げるための意見交換。
- ・集落内での対話活動を要支援者や1人暮らし高齢者だけでなく、対象を広げていきたい。
- ・子供会のラジオ体操を一緒に行うなどの高齢者の健康増進を図る事業。
- ・夏祭り、芋煮会、レクリエーション大会等のコロナ禍で見合わせした事業の復活。
- ・ごみステーションの補修。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

【30 世帯以下】

- ・集落単独では高齢化のため参加できる人が少なくなっており、隣の集落との合同の組織または行事を行うことも考えていく必要がある。

【31～100 世帯】

- ・伝統的、歴史的コミュニティではあるが、構成員が少なく少子高齢化も重なり、コミュニティを守っていくのも育てていくのも大変な時代となったと感じる。

地域課題① 身近な地域の居場所づくり

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ活動についての研修会や情報交換
- 広域コミュニティ活動の地域内外への発信
- 地域資源を活かしたコミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 適正な受益者負担の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・広報誌の毎月発行による広域コミュニティ活動の情報発信を行った。
- ・街並み景観や鳥獣被害対策などの研修会、講演会を実施した。
- ・誰でも参加できるイベントを通じ、老若男女世代を超えた交流の場を提供した。
- ・男性、女性それぞれを対象とした各種教室を開催した。
- ・外部団体と共催で夏休み子ども教室を開催し、親睦、交流を図った。
- ・外部団体と連携し月1回のサロンを開催し、老若男女問わず世代を超えた親睦と交流の場を提供した。
- ・世代関係なく参加できる地域事業をはじめ、世代ごとに楽しんで参加できる事業も企画し、年間を通して地区住民同士が交流する機会を作った。

地域課題② 単位自治組織と連携した事業体制と新たな人材育成

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織による単位自治組織への支援
- 地域の現状と目指すまちの姿を共有し、地区住民の声を反映した「地域ビジョン」の策定
- 地域活動に参加する契機の創出
- 地域コミュニティに関わる団体・組織との交流
- 新たなリーダー輩出につながる、サブリーダーからの人材育成と達成感を感じる仕掛けづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・門前市、地区球技大会を開催した。
- ・地域ビジョンのキーワードをもとに、多世代が交流できる場所と機会づくりに取り組んだ。また、事業実施の報告と次年度に向けてのふり返りの場を設けた。
- ・若い人材から、夏祭り・文化祭・雪上レクリエーションに携わってもらい、事業を行なうことができた。
- ・各集落から選任された役員と協力し、事業を企画・運営した。

地域課題③ 郷土愛を育む学びの場と地域の魅力を発信できる仕組みづくり

★具体的取組の例

- 子どもたちの郷土愛を育む社会教育活動の実践
- 小学校等と連携した協働活動の推進
- 若者に魅力ある子育てしやすい環境づくり
- 地域外から人材を呼び込み、地域力の維持・強化と地域の魅力の再発見と発信
- 新しい生活様式に対応し、SNS やオンライン化の導入を検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・小学生を対象とした朝山登山やホタル観賞会、公園ツリーイング、杉並木観察会、観察会を実施した。
- ・地区の魅力発見事業として、昨年とコースを変えた地区内ウォーキング、文化祭でのフォトコンテストを実施した。
- ・広報紙の他、SNS を使い地域内外に地区の魅力や情報の発信をした。
- ・小学校と外部団体と連携し、農作業を通じた世代間交流事業を実施した。
- ・地域ビジョン策定の取組みを通じ、地域の資源や魅力を整理、確認することができた。

地域課題④ 自主防災組織と連携した防災の体制づくり

★具体的取組の例

- 情報伝達、情報収集方法の構築
- 単位自治組織の自主防災会への働きかけや支援
- 地域の実情に即した避難訓練や防災研修等の実施

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地区防災訓練、安全パトロールを実施した。
- ・避難行動要支援者の確認を行った。
- ・地区を5ブロックに分け、集落自主防災会や振興会防災安全部、消防、警察等と連携しながら、毎年順番で防災訓練を実施しており、担当ブロックの住民が、避難訓練や炊出し等を体験した。
- ・各組織と連携し、防災意識の高揚と地域の実情に即した防災訓練や講演会を実施した。
- ・庁舎と共催して総合防災訓練を実施した。今後、防災意識の向上を図る事業を検討する。

地域課題⑤ 安心して暮らし続けられるコミュニティづくり

★具体的取組の例

- 高齢者や要支援者の見守り支援体制の構築
- 各種団体や組織と連携した防犯体制の取組
- 不良空き家化の予防啓発
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地域通貨の流通、鳥獣被害対策の強化に取り組んだ。
- ・資源回収において、自己搬出が難しい高齢者を対象に回収代行支援を実施した。
- ・全国規模で起こっている詐欺被害等の情報提供や心構えと予防策の研修会を開催した。
- ・各組織と連携し、通学路の危険箇所点検や防犯体制強化の取組みを実施した。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・空き家の増加。
- ・鳥獣被害。
- ・事業がコロナ禍前には戻っておらず、多世代が交流できる機会が減っている。
- ・少子高齢化に伴う子育て支援や1人暮らし高齢者への支援。
- ・少子高齢化が進み、従来の組織体制を継続していくことが困難となっている。

その他／ 具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業など

- ・地区全住民対象の新たなイベントを開催したい。
- ・活動センターの一室を開放し、地区住民が自由に交流できる場所を提供する事業の実施。
- ・集落や世代を超えて交流ができるイベントの実施。
- ・地域住民と一体感を取り戻す柱となっている運動会、敬老会、文化祭のコロナ前のような規模での開催。
- ・地域ビジョンの実現に向け、地域の現状と目指すまちの姿を共有し、地域住民の声を反映した事業の展開。
- ・地域ビジョンのSDGs目標に基づいた資源回収の実施。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・住民が住み続けたい、戻ってきたいと思えるようなまちづくりに向けて取り組んでいくとともに、その母体(活動拠点)となる活動センターの再整備について進めていただきたい。